



文化

世界に誇る文化の伝承ここにあり!

越後上布技術保存協会 『苧麻編』
ちょま

苧麻(ちょま)ってご存知ですか？

昭和 30 年に国の重要無形文化財総合指定第 1 号に指定され
平成 21 年には日本の染織では初めてユネスコの世界無形文化遺産に登録された、
南魚沼市が世界に誇る織物「越後上布」。
その原材料が「苧麻」です。

「カラムシ」とも呼ばれるイラクサ科の植物で、
主に福島県の昭和村で栽培されています。

南魚沼市栃窪には苧麻の試作畑があります。
苧麻栽培は、越後上布技術保存協会が伝統の栽培方法の保存や
越後上布の織り方を学び受け継ぐ人を育成するために、
1986 年から始めたのだそうです。

毎年、初夏(6 月頃)になると、この畑で“あること”が行われます。
それが「苧麻畑の野焼き」。

伸び始めた苧麻を草刈り機で刈り、
藁をまんべんなく敷き詰め、
藁を敷いた畑に火をつけて、焼きます！

見る見るうちに火が回り、あっという間に畑は真っ黒焦げ。
火を完全に消した後は土に栄養をまき、
風よけのネットを周りに張り巡らせて、
苧麻畑の野焼きは完了。
作業には毎年、近くの栃窪小学校の児童も参加しています。

なぜ畑を焼くのかというと…

- 1 不揃いの長さの苧麻を一度刈り取り、苧麻の成長を均一にするため
- 2 焼く事で病害虫防除にもなるため

これは伝統的な栽培法で、6月半ばに野焼きを行った苧麻は8月上旬には約2メートルにまで成長するのだそうです。

成長した苧麻は刈り取った後、剥いた皮から繊維を取り出す「苧(お)引き」という工程を経て乾燥させることで、越後上布の原料の「青苧(あおそ)」となります。

極上の「越後上布」を作るために…

これからも雪国の文化を守り受け継いでいくために、大切にしたい活動です。